

(別紙)

## 埼玉県認知症介護実践研修(実践リーダー研修)標準カリキュラム

講義・演習56時間(3,360分) 実習:職場実習4週間(課題設定420分、実習のまとめ420分含む)

教科名	目的	内容	時間数	区分
1 認知症介護実践リーダー研修総論				
(1) 認知症介護実践リーダー研修の理解	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーの役割と研修科目との関係性を踏まえ、研修の概要を把握する。実践リーダーとしての自己の課題を確認し、研修における学習目標を明確にする。	・研修の位置づけ ・科目のねらいと概要 ・自己課題と研修目標の設定	60分	講義・演習
2 認知症の専門知識				
(1) 認知症の専門的理解	認知症の原因となる疾患別の容態、薬物治療、対応方法等に関する最新かつ専門的な知識を理解する。	・認知症の原因疾患と発生機序、疾患別の中核症状と行動・心理症状(BPSD)、合併しやすいその他の症状・認知症の診断基準、検査、原因疾患別の鑑別、若年性認知症の特徴、MCIの診断基準・認知症治療薬や行動・心理症状(BPSD)に適応のある薬物の主な作用機序と副作用、非薬物的介入法の開発状況 ・認知症の原因疾患毎の特徴を踏まえた上での対応のポイントや留意点 ・認知症の告知、若年性認知症に関わる社会的な課題、ターミナルケア等の課題	120分	講義・演習
(2) 認知症ケアに関する施策の動向と地域展開	地域包括ケアシステムにおける認知症施策の変遷と最新の動向を理解する。地域における認知症施策の展開例を知り、地域包括ケアシステムの構築に必要な関係機関との連携・参画できるための知識を修得する。	・認知症に関連する制度と施策の変遷 ・最新の認知症施策に関する概要 ・各施策や制度の実際の動向と地域への施策展開	240分	講義・演習
3 認知症ケアにおけるチームマネジメント				
(1) 認知症介護実践リーダーの役割	チームの構築や活性化のため、実践リーダーとしての役割を理解し、円滑にチームを運用する者であることの自覚を促す。	・チームにおける実践リーダーの役割 ・チーム運用と活性化の方法 ・チームづくりの技法(方針の決定、システムづくり、コミュニケーション等の調整)	180分	講義・演習
(2) チームにおけるケア理念の構築方法	チームにおけるケア理念の必要性を理解し、ケア理念の構築とチーム内の共有化を図るための運用・展開方法を修得する。	・チームにおけるケア理念の必要性 ・チームにおけるケア理念の構築方法 ・チームにおけるケア理念の展開と運用方法	240分	講義・演習
(3) 実践者へのストレスマネジメントの理論と方法	チームケアを円滑に運用するため、ストレスの仕組みと対処法を理解した上で、実践リーダーとして実践者のストレスの緩和やメンタルヘルスのマネジメントを実践することができる。	・チームケアにおけるストレスマネジメントの方法 ・ストレスの仕組みと対処法 ・組織のメンタルヘルス対策と実践者への支援方法	180分	講義・演習

## 埼玉県認知症介護実践研修(実践リーダー研修)標準カリキュラム

教科名	目的	内容	時間数	区分
(4) チームケアのためのケースカンファレンスの技法と実践	チームケアの質の向上を図るため、カンファレンスの効果的な展開方法を身につけ、チームにおける意思決定プロセスの共有を実現することができる。	・カンファレンスの意義や目的 ・カンファレンスの種類や方法 ・演習によるカンファレンスの実施プロセスの体験	240分	講義・演習
(5) 認知症ケアにおけるチームアプローチの基本と実践	多職種や同職種間での適切な役割分担や連携にあたって、認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解し、実践するための指導力を身につける。	・認知症ケアにおけるチームアプローチの方法 ・認知症ケアにおけるチームの特徴や役割分担の方法 ・多職種や同職種間でのケアの目標や情報の共有方法、認知症ケアにおける効果的な連携方法	180分	講義・演習
(6) 職場内教育(OJT)の方法の理解と実践Ⅰ(運用法)	認知症ケアの質の向上における人材育成の方法を理解し、特に職場内教育(OJT)の種類、特徴を踏まえた実際の運用方法を修得する。	・人材育成の理論、方法 ・職場内教育(OJT)の特徴 ・職場内教育(OJT)の実施方法(計画の作成・指導・評価)	240分	講義・演習
(7) 職場内教育(OJT)の方法の理解と実践Ⅱ(技法)	実践者への指導に有効な技法の種類と特徴を理解し、職場で実践できる指導技術の基本を修得する。	・職場内教育(OJT)における指導技法の必要性 ・職場内指導におけるコーチング、スーパービジョン、面接の理論と技法	420分	講義・演習
<b>4 認知症ケアの指導方法</b>				
(1) 認知症ケアの指導の基本的視点	認知症ケアを指導する立場として、指導に関する考え方や基本的態度、認知症ケアの理念を踏まえた指導に必要な視点を理解する。	・認知症ケアの実践者に必要な知識、技術、態度の理解 ・実践リーダーに必要な基本的態度 ・認知症ケアの指導に必要な視点(倫理、権利擁護、食事、入浴等の指導)	60分	講義・演習
(2) 認知症ケアに関する倫理の指導	認知症ケアにおける倫理的課題の解決方法を理解するとともに、実践リーダーとして必要な認知症ケアの倫理の考え方や指導方法について理解する。	・倫理的課題の解決方法 ・終末期ケアの倫理 ・リスクマネジメントにおける倫理 ・職業倫理(利用者-ケア提供者の関係) ・研究倫理	120分	講義・演習
(3) 認知症の人への介護技術指導(食事・入浴・排泄等)	実践者が適切な介護を行うため、食事・入浴などの基本的な生活場面において実践者に必要なアセスメントの視点や介護技術を評価するための考え方や指導方法を理解する。	・認知症の人の食事・入浴などの介護の目的と目的達成に必要な知識、技術、態度 ・実践者のアセスメント能力と介護技術の評価の視点と方法 ・実践事例を踏まえた指導課題の明確化、指導目標の設定、指導方法	240分	講義・演習
(4) 認知症の人の行動・心理症状(BPSD)への介護技術指導	実践者が適切な介護を行うため、認知症の人の行動・心理症状(BPSD)に対する介護に必要なアセスメントの視点や介護の技術を評価するための考え方や指導方法を理解する。	・行動・心理症状(BPSD)への介護の目的と目的達成に必要な知識、術、態度 ・実践者のアセスメント能力と介護技術の評価の視点と方法 ・実践事例を踏まえた指導課題の明確化、指導目標の設定、指導方法	180分	講義・演習

## 埼玉県認知症介護実践研修(実践リーダー研修)標準カリキュラム

教科名	目的	内容	時間数	区分
(5) 認知症の人の権利擁護の指導	認知症の人の権利擁護に関する指導目標、知識や技術の評価方法や指導方法を理解する。認知症ケアにおけるリスクマネジメントの指導の視点を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の権利擁護の目的と目的達成に必要な知識、技術、態度の理解</li> <li>・認知症の人の権利擁護に関する知識や技術の評価の視点と方法</li> <li>・認知症の人の権利擁護に関する指導方法</li> <li>・認知症の人の生活リスクを低減するためのリスクマネジメント指導の必要性</li> </ul>	240分	講義・演習
(6) 認知症の人の家族支援方法の指導	認知症の人の家族支援に関する指導目標、知識や技術の評価方法や指導方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の家族支援に関する基本的態度や必要な知識、技術の理解</li> <li>・認知症の人の家族支援に関する実践者の知識や技術の評価の視点と方法</li> <li>・認知症の人の家族支援に関する指導方法</li> </ul>	180分	講義・演習
(7) 認知症の人へのアセスメントとケアの実践に関する指導	認知症の人の生活の質を向上させるため、アセスメントやケアの実践に関する評価方法や指導方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人の生活の質を向上させるための基本的態度や知識、技術の理解</li> <li>・認知症の人へのアセスメントやケアの実践に関する評価方法</li> <li>・認知症の人へのアセスメントやケアの実践に関する指導方法</li> </ul>	240分	講義・演習
<b>5 認知症ケア指導実習</b>				
(1) 自施設実習の課題設定	研修で学んだ内容を生かして、自施設の実践者の認知症ケアの能力の評価方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの指導の実習の目標設定</li> <li>・実践者の認知症ケアの能力を評価するための観点とその方法</li> </ul>	420分	講義・演習
(2) 自施設実習	研修で学んだ内容を生かして、自施設の実践者の認知症ケアの能力の評価、課題の抽出、指導目標の設定や指導計画を作成し、指導計画に基づいた認知症ケアを指導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの能力の評価、課題の抽出、課題に応じた指導目標の設定、指導方法に関する指導計画の作成</li> <li>・作成した指導計画に基づいた指導の実践</li> </ul>	18日	実習
(3) 結果報告	自施設実習を通して、認知症ケア指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとして指導の方向性を明確にできる。	・実習の課題分析・報告	420分	講義・演習
(4) 自施設実習評価		・実習評価	上記に含む	講義・演習